国民の森林・国有林

若狭森林計画区の概要と次期計画の検討方向



松原国有林（敦賀市）

林野庁 近畿中国森林管理局
福井森林管理署

はじめに

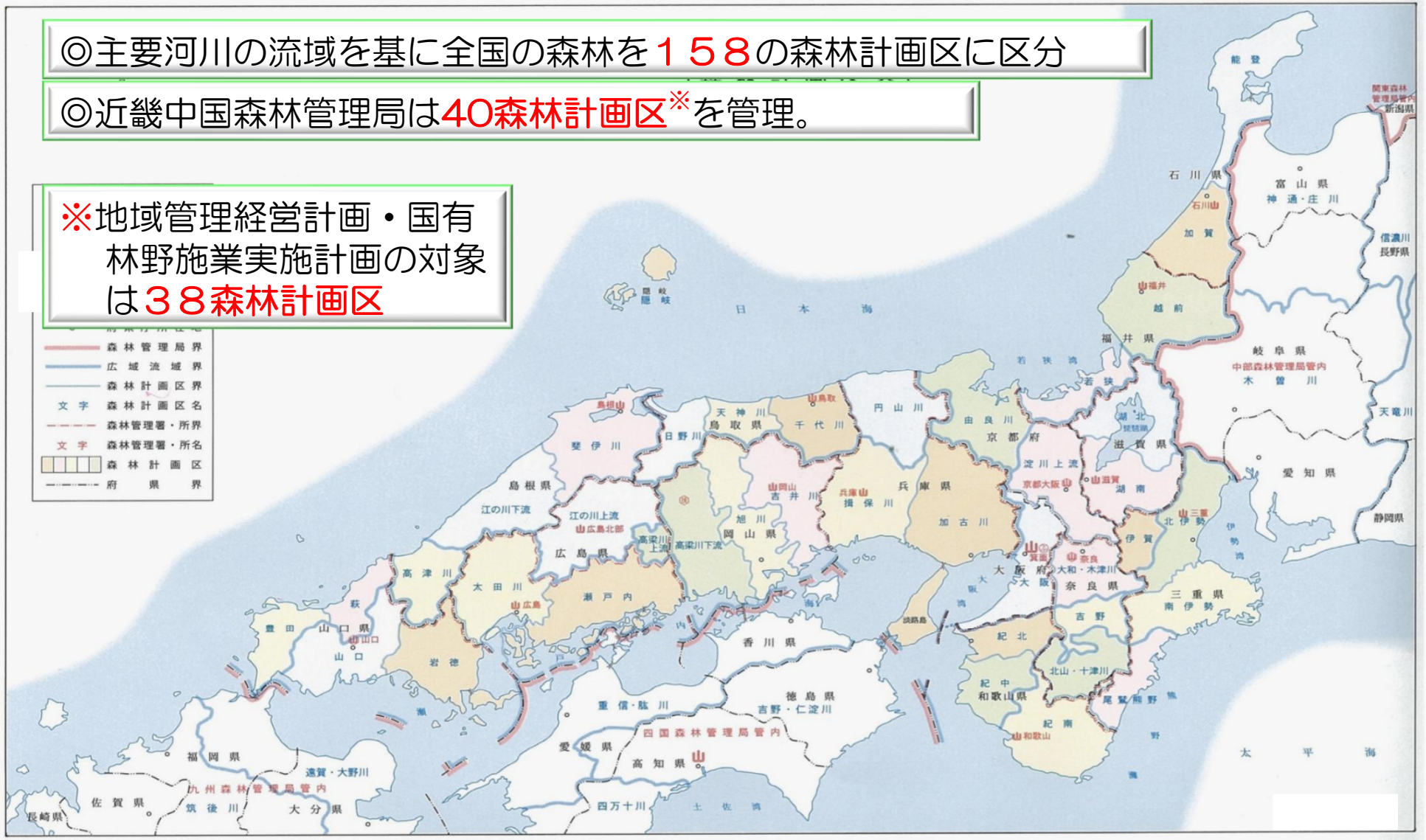
国有林における森林計画と地域住民からの意見聴取

近畿中国森林管理局管内の森林計画区とは

◎主要河川の流域を基に全国の森林を１５８の森林計画区に区分

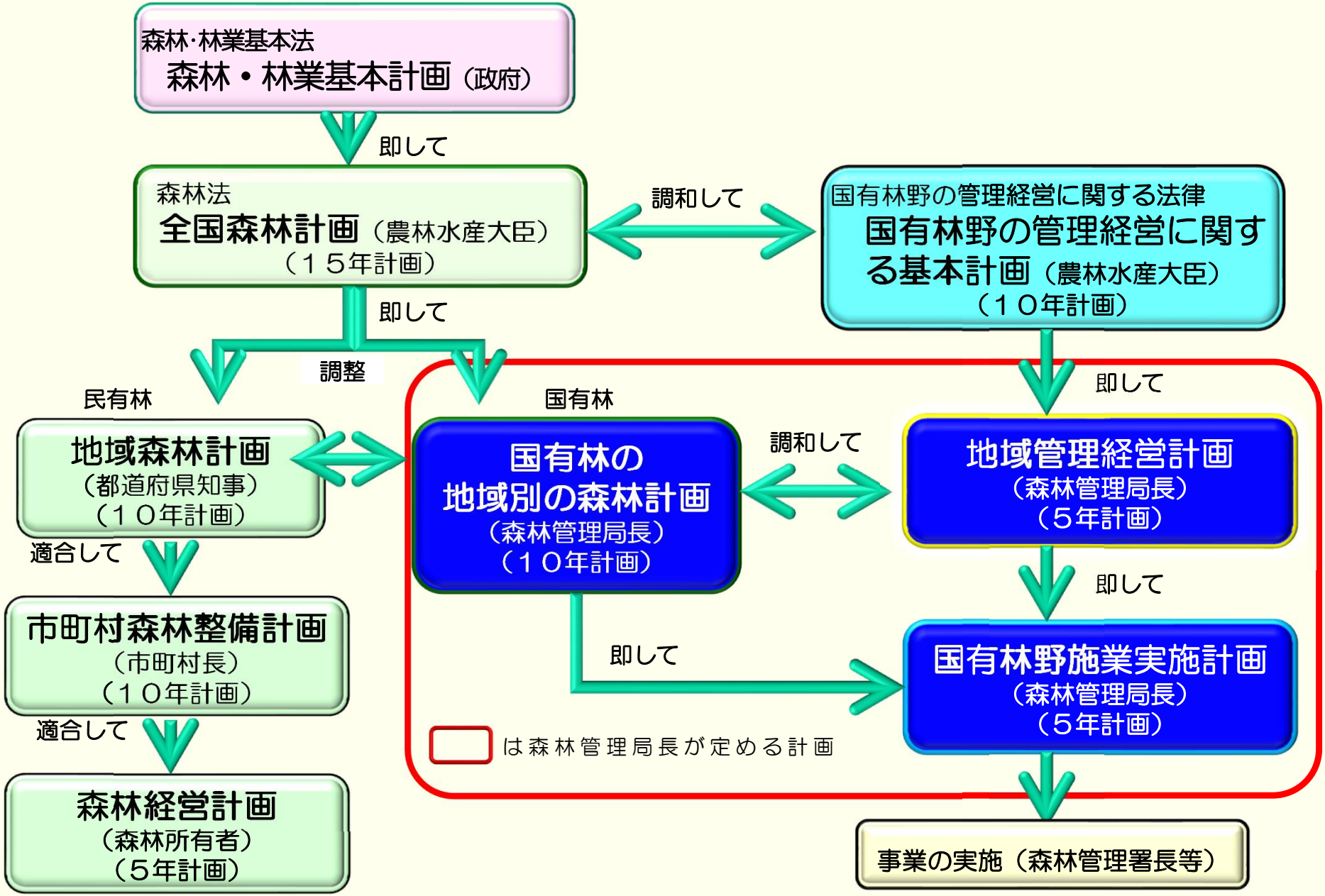
◎近畿中国森林管理局は40森林計画区※を管理。

※地域管理経営計画・国有林野施業実施計画の対象は３８森林計画区



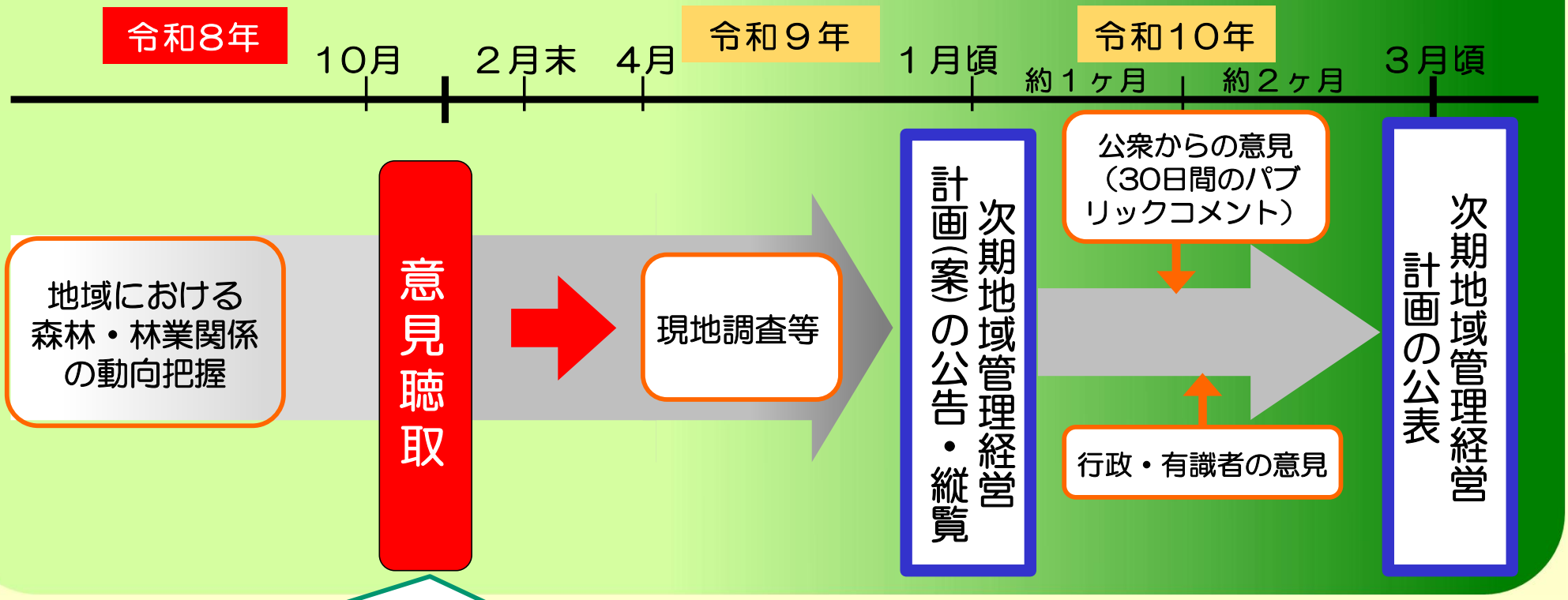
森林計画と地域住民からの意見聴取②

国有林で作成する森林計画



地域懇談会の位置づけ

●地域管理経営計画の策定スケジュール



目的
　地域管理経営計画等の計画策定手続き前に地域の方々から計画検討の参考となる意見を幅広く収集

説明事項

○ 森林と林業の現状

○ 地域管理経営計画の概要

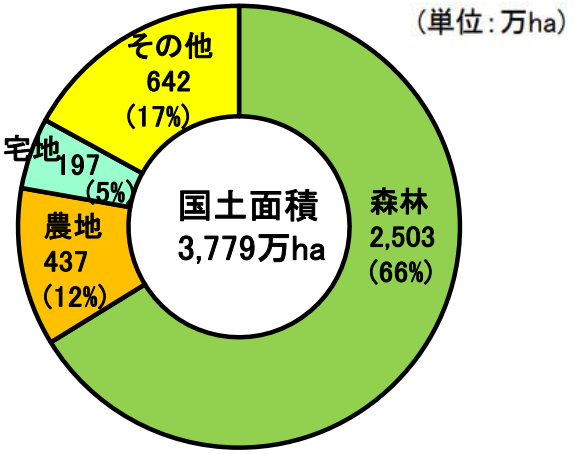
○ 若狭森林計画区における国有林の
特徴的な取組

○ 次期計画の検討方向

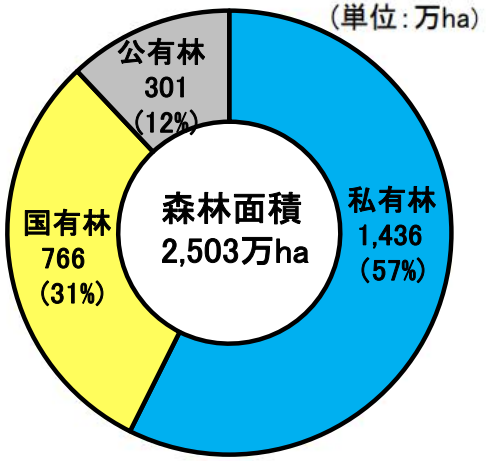
我が国の森林と国有林

- ○ 日本の森林面積は国土の約６６％
- ○ 森林面積約2,５００万haうち国有林は約７６６万ha（約31％）
- ○ 近畿中国森林管理局所管の国有林は約31万ha

国土面積と森林面積の内訳



資料：国土交通省「令和6年度版土地白書」
（国土面積は令和2年の数値）
注：林野庁「森林資源の現況」とは森林面積の調査手法及び時点が異なる。



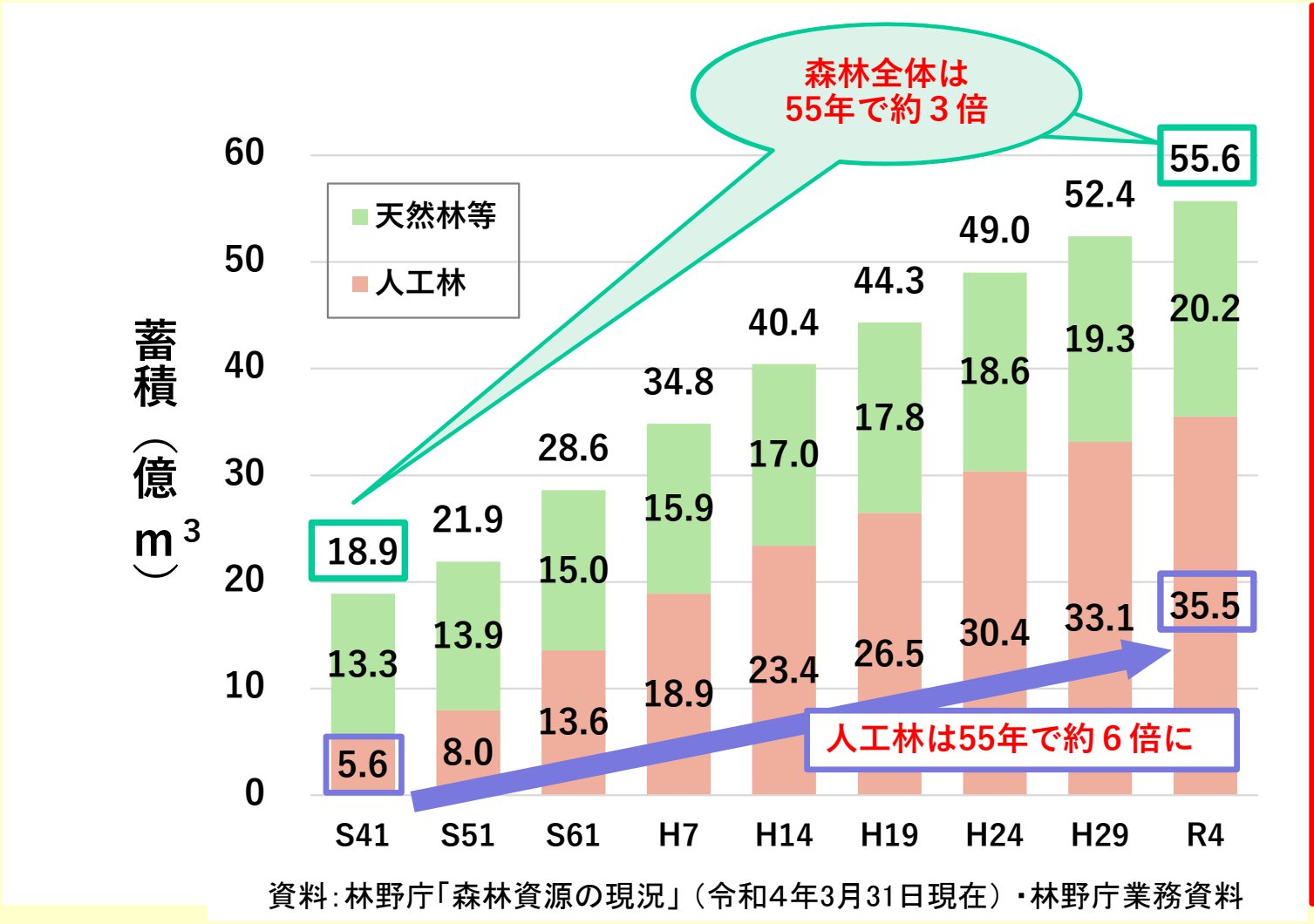
資料：林野庁「森林資源の現況」
（令和4年3月31日時点）
注1：林野庁「森林資源の現況」とは森林面積の調査手法及び時点が異なる。

国有林野の分布状況

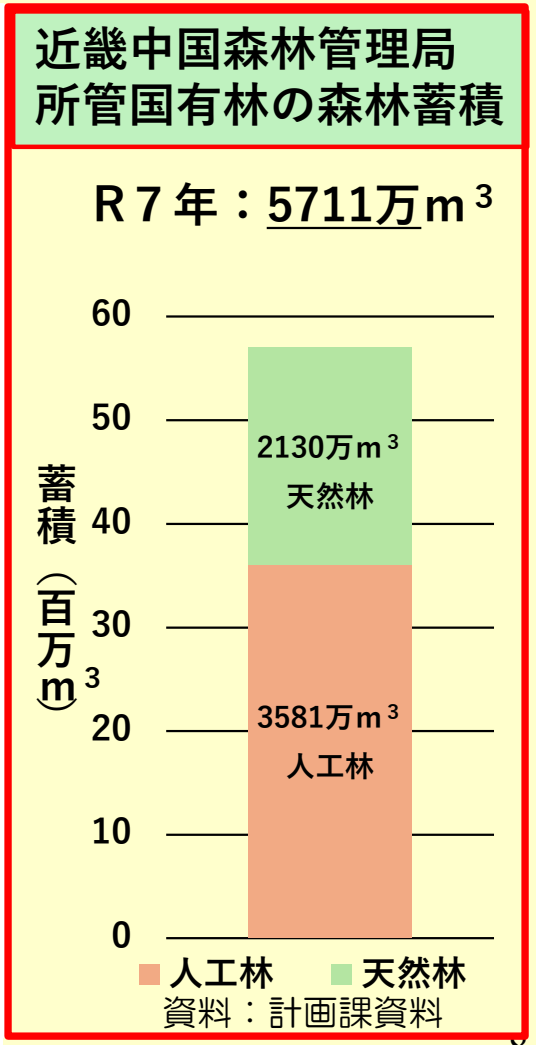


我が国の森林と国有林

○ 森林の蓄積は約56億m³、蓄積は年間３～６千万m³で増加傾向
○ 55年かけて森林全体では3倍、人工林は約6倍の量に！



資料：林野庁「森林資源の現況」（令和4年3月31日現在）・林野庁業務資料



資料：計画課資料

人工林と天然林

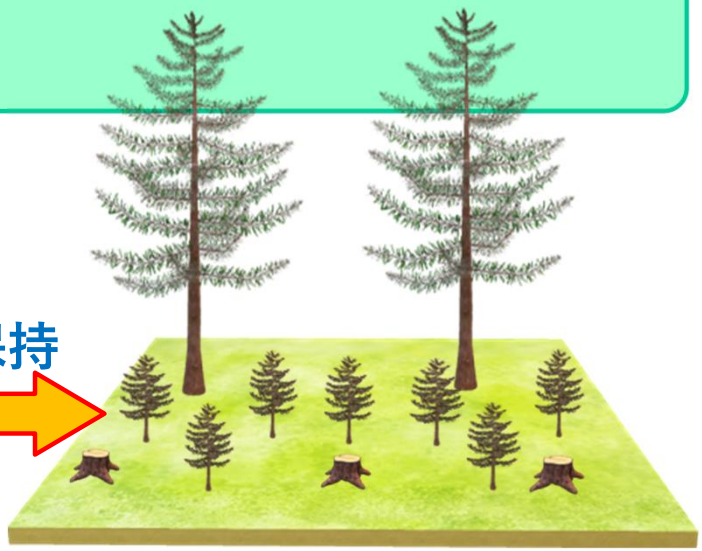
人工林：人工造林により造成した林分

・主に単一の針葉樹で構成
・日本の森林の４割を占める



林分初期段階　若齢段階　成熟段階

一部保持



非皆伐更新（複層林）

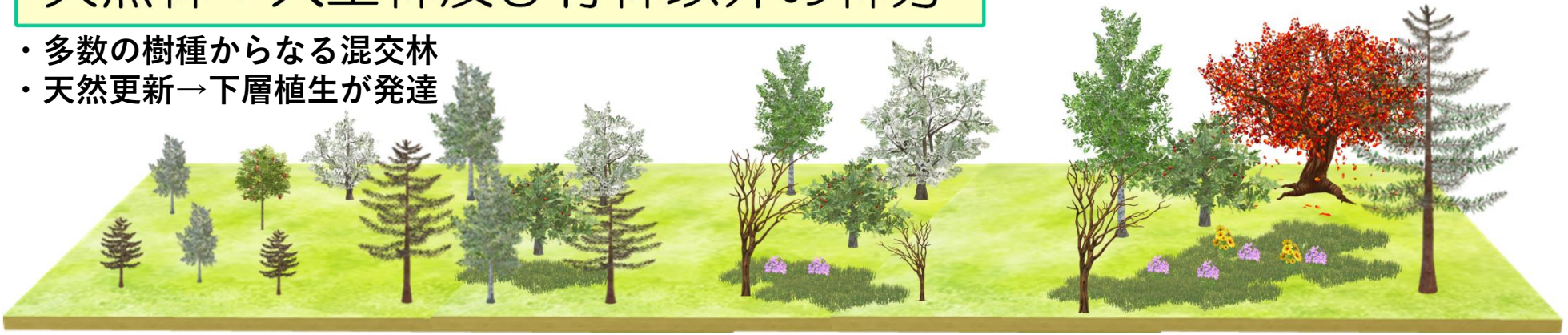
皆伐



皆伐更新

天然林：人工林及び竹林以外の林分

・多数の樹種からなる混交林
・天然更新→下層植生が発達

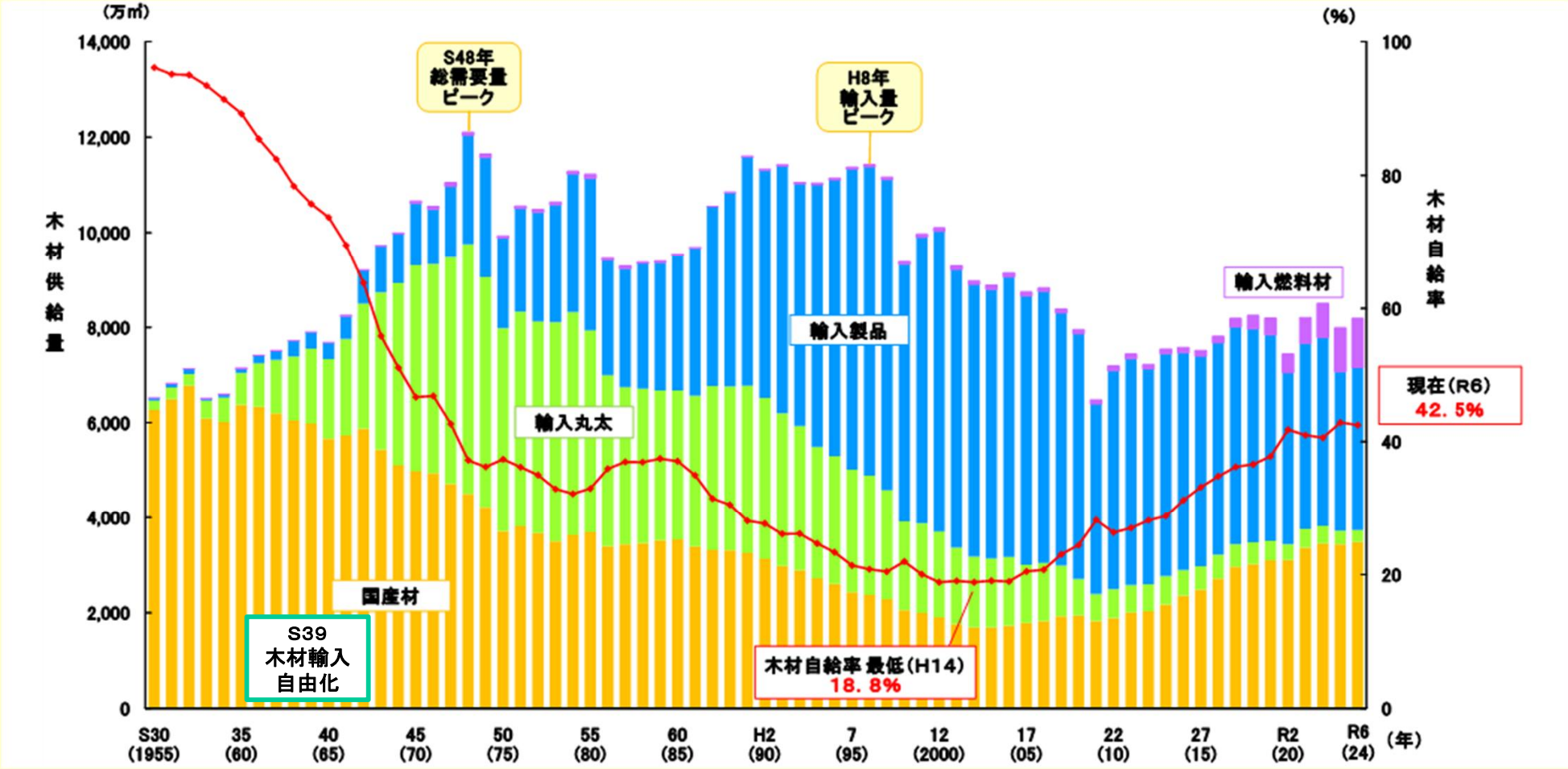


林分初期段階　若齢段階　成熟段階　老齢段階

木材供給量と自給率

○国産材の供給量は、森林資源の充実や合板への利用増加等を背景に、近年は増加傾向から横ばい傾向にあり、木材自給率は４２.５％に回復

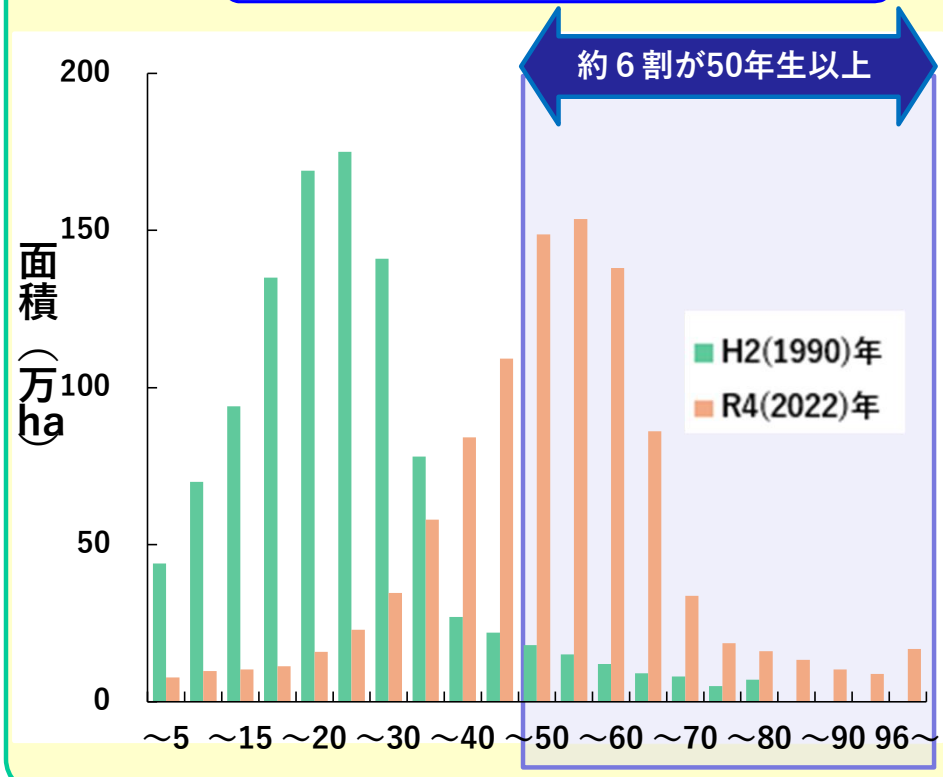
木材供給量と自給率の推移



森林資源の循環利用

〇森林の蓄積は年々増加するとともに、人工林の約６割が50年生以上となっており、木材としての本格的な利用期を迎えている。
〇森林の有する多面的機能の発揮、林産物の安定供給を両立するため、伐って、使って、植えて、育てる「資源の循環利用」が必要

人工林の齢級別面積



森林資源の循環利用



森林・林業基本計画 ～百年つづく森の国・木の街へ～ （令和8年6月閣議決定）

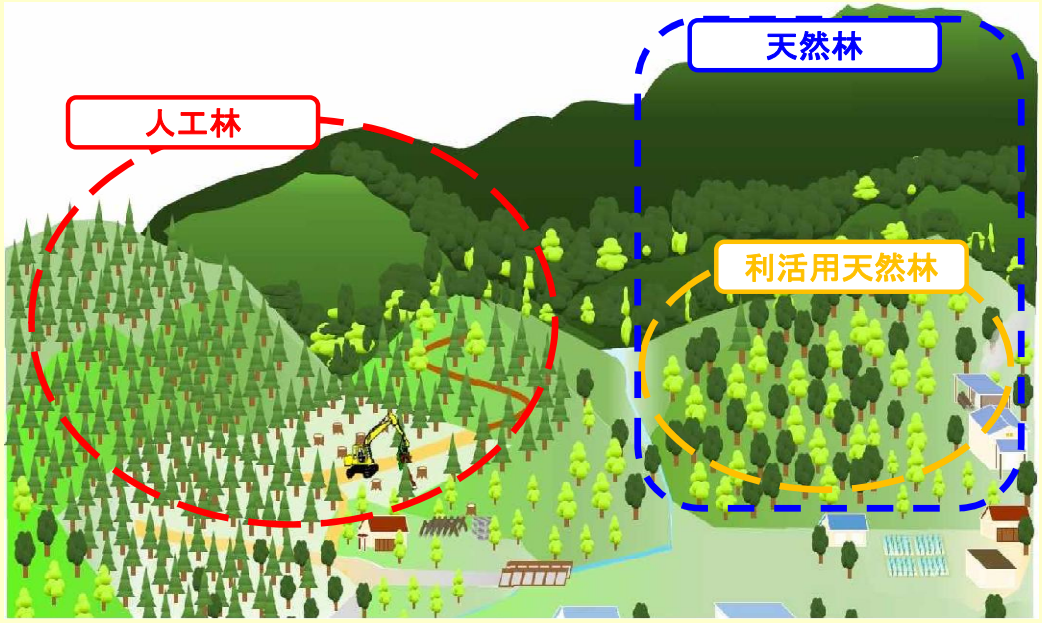
森林の有する多面的機能の発揮に関する目標

多面的機能が持続的に発揮される「指向する森林の状態」に向け、望ましい森林の整備・保全が行われた場合に見込まれる5年後、10年後、20年後の状態を目標として設定

＜森林の有する多面的機能の発揮に関する目標＞

	R7年（現況）	目標とする森林の状態			指向状態（参考）
		R12年	R17年	R27年	
森林面積(万ha)					
人工林	1,020	1,010	1,000	980	630
天然林	1,490	1,500	1,510	1,530	1,870
うち、利活用等により機能の維持増進を図る天然林	110	130	150	190	520
合計	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500

＜多面的機能が発揮される森林＞



注 1：森林面積は、10万ha単位で四捨五入している。
2：人工林には伐採跡地を、天然林には竹林及び未立木地を含む。
3：目標とする森林の状態及び指向する森林の状態は、R7年を基準として算出。
4：R7年の値は、R2年4月1日の数値。
5：利活用等により機能の維持増進を図る天然林の現況は、天然林のうち人為により成立しているものを集計。

多様な森林への推進イメージ

多様な森林づくりの推進

□ 森林の多面的機能の発揮に向けては、多様な森林の配置となるよう、森林の発揮する機能に応じたゾーニングに取り組みつつ、主に植栽により成立している森林（人工林）と、主に天然更新により成立している森林（天然林）のそれぞれについて、機能に応じた森林の整備・保全を推進することが重要。

■ 多様な森林づくりの推進（イメージ）



多様な伐採手法と伐採後の確実な更新

Point

➢ **森林計画制度に基づくゾーニング等**

・発揮する機能に応じたゾーニング

・モニタリング調査による森林生態系の持続性の確認

Point

➢ **人工林における多様な森林整備の推進**

・様々な生育段階や樹種から構成される森林に向けた多様な森林整備

（林業適地における再造林）

Point

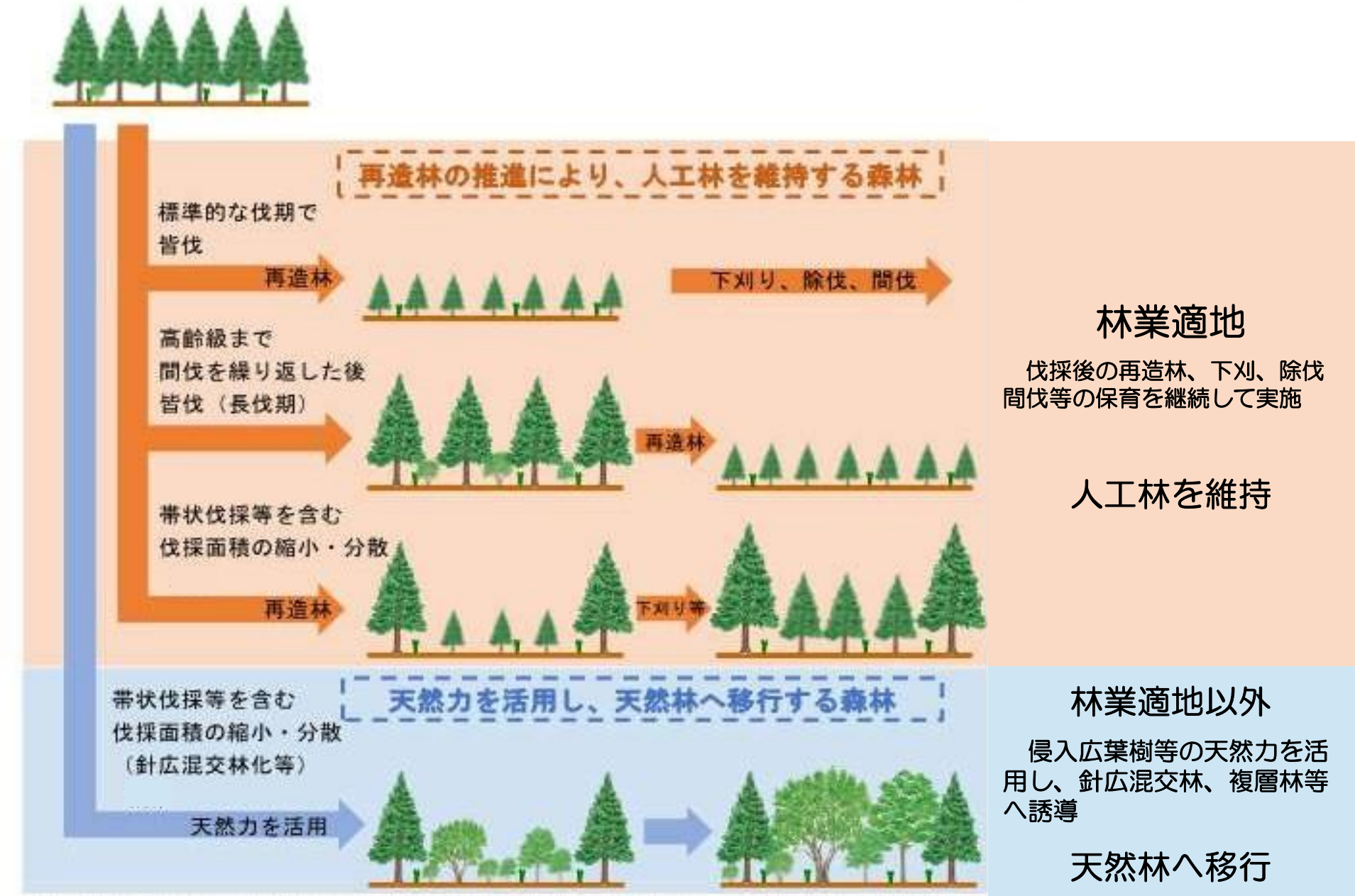
➢ **天然林の整備・保全の推進**

・里山林等における広葉樹林や森林空間等の利活用

・原生的な天然林等における保護・管理等

これらにより、多様な森林の配置と機能に応じた森林の整備・保全を推進

人工林における多様な森林整備



森林・林業基本計画 ～百年つづく森の国・木の街へ～ （令和8年6月閣議決定）

林産物の供給及び利用に関する目標

望ましい森林の整備・保全が行われた場合の木材供給量、今後の需要動向を見通した上で、諸課題が解決された場合に実現可能な木材利用量を目標として設定

＜木材供給量の目標＞

（単位：百万㎥）

	R６年（実績）	R12年（目標）	R17年（目標）
木材供給量	35	40	42

＜用途別の利用量の目標＞

（単位：百万㎥）

用途区分	総需要量			国産材利用量		
	R６年（実績）	R12年（見通し）	R17年（見通し）	R６年（実績）	R12年（目標）	R17年（目標）
製材用材	25	26	26	14	18	20
合板用材	8	8	9	4	5	6
ﾊﾟﾙﾌﾟ・ﾁｯﾌﾟ用材等	27	26	26	4	4	4
燃料用材	23	24	24	12	13	13
合計	82	85	85	35	40	42

注 1：用途別の利用量は、国産材に係るものである。
2：各用途には輸出を含む。
3：「パルプ・チップ用材等」には、しいたけ原木等を含む。
4：「燃料材」とは、ペレット、薪、炭、燃料用チップである。
5：百万㎥単位で四捨五入しているため、計が一致しないものがある。

地域管理経営計画の概要

国有林野の管理経営の基本方針

① 公益的機能の維持増進

② 林産物の持続的かつ計画的な供給

③ 地域産業の振興及び住民福祉の向上への寄与

地域管理経営計画の概要②

○公益的機能の維持増進


坂泰山国有林（紀南森林計画区）

国土の保全


十文字山国有林（江の川下流森林計画区）

十文字山ﾌﾞﾅﾐｽﾞﾅﾗ希少個体群保護林

○林産物の持続的かつ計画的な供給


悟入谷国有林（北伊勢森林計画区）

高性能林業機械による造材


三光山国有林（高梁川下流森林計画区）

コンテナ苗造林

○地域における産業振興及び住民福祉の向上への寄与


鉢伏山国有林（越前森林計画区）

レクリエーションの森
（野外スポーツ地域）


伊崎国有林（湖南森林計画区）

協定に基づく活動

地域管理経営計画の概要③

地域管理経営計画の構成

Ⅰ　管理経営に関する基本的な事項（基本方針、主要事業量 等）

Ⅱ　国有林野の維持及び保存（巡視、病害虫の防除、森林の保護 等）

Ⅲ　林産物の供給（木材の安定的な供給 等）

Ⅳ　国有林野の活用（活用の推進方針やその具体的な手法 等）

Ⅴ　国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全等に関する事項

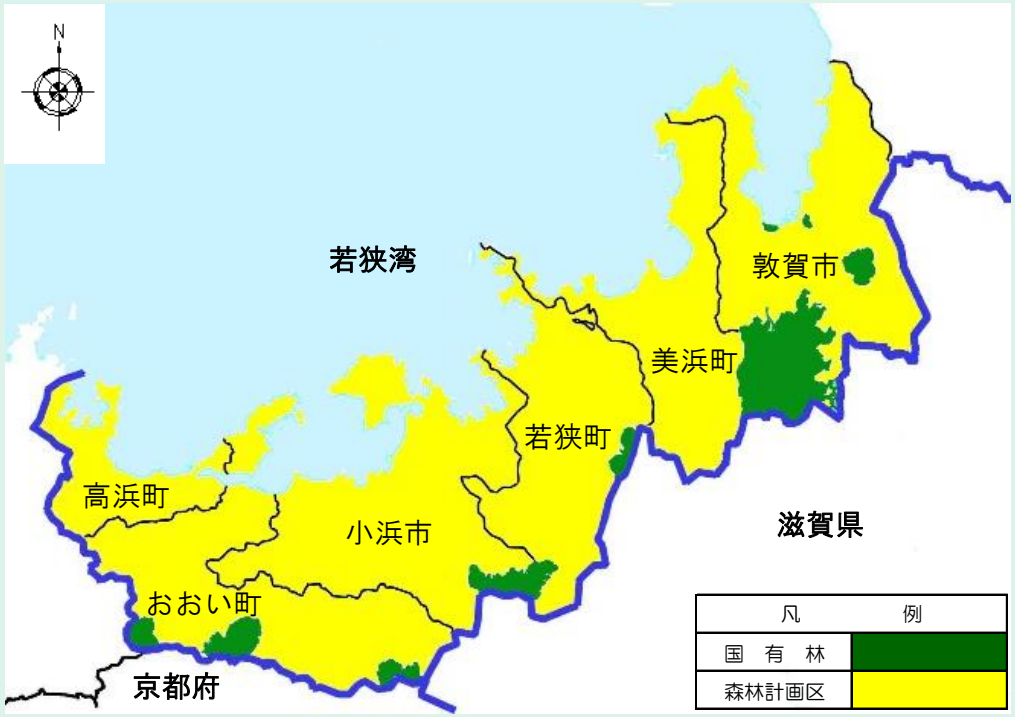
Ⅵ　国民の参加による森林整備（森林環境教育の推進 等）

Ⅶ　その他（林業技術の開発及び普及、地域振興 等）

若狭森林計画区における
国有林の特徴的な取組

若狭森林計画区の概況

【若狭森林計画区位置図】



○若狭森林計画区は、福井県南部に位置し、国有林野の大部分が県境に分散。

○森林の総面積88千haのうち国有林野は７千ha（8%）。

○若狭湾国定公園の一部を形成し、豊かな森林景観及び豊富な観光資源に恵まれ、ハイキングなど森林を利用したレクリエーション・保健休養の場として広く利用。

（該当市）
敦賀市、小浜市、おおい町、若狭町

森林資源の状況

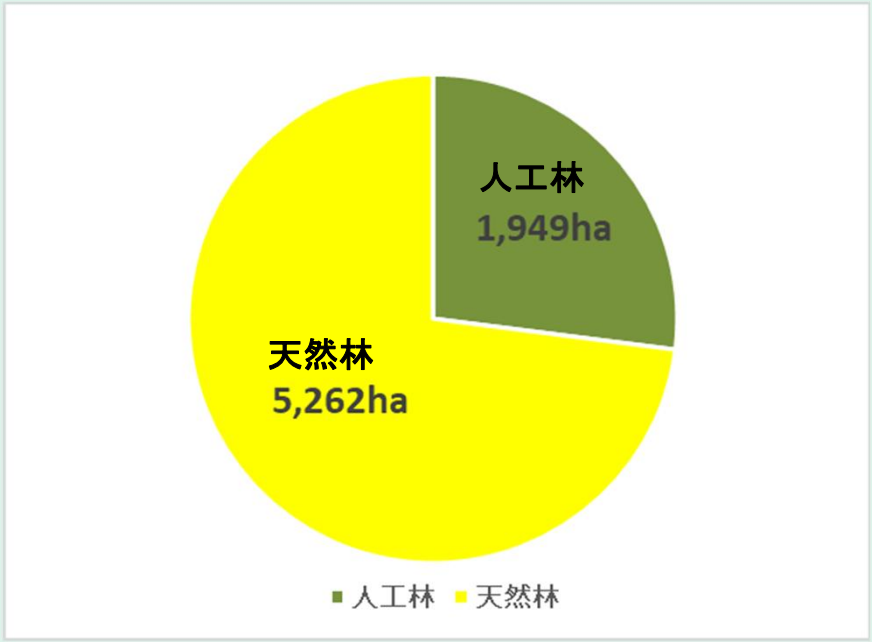
○面積割合は人工林が27%、天然林が73%

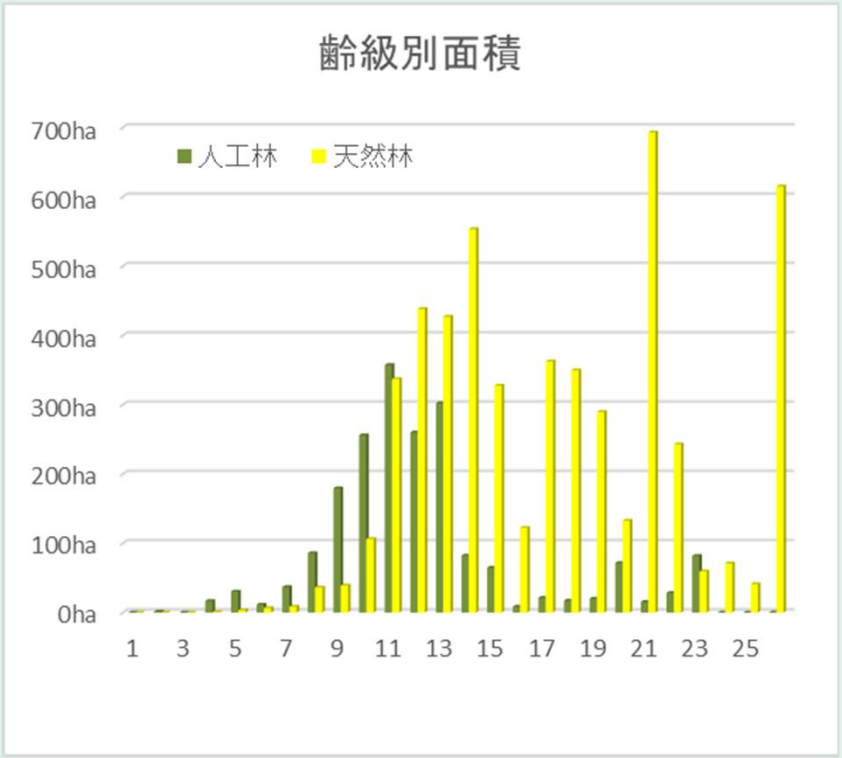
○人工林の蓄積割合は、スギ65%、ヒノキ12％、クロマツ3%、その他が20%

○人工林の齢級は9齢級から13齢級が中心

※齢級とは、森林の年齢(林齢)を5年でひとくくりにし、林齢1～5年生を1齢級、6～10年生を2齢級、以下3齢級・・・と称する。

【人工林・天然林の面積割合】





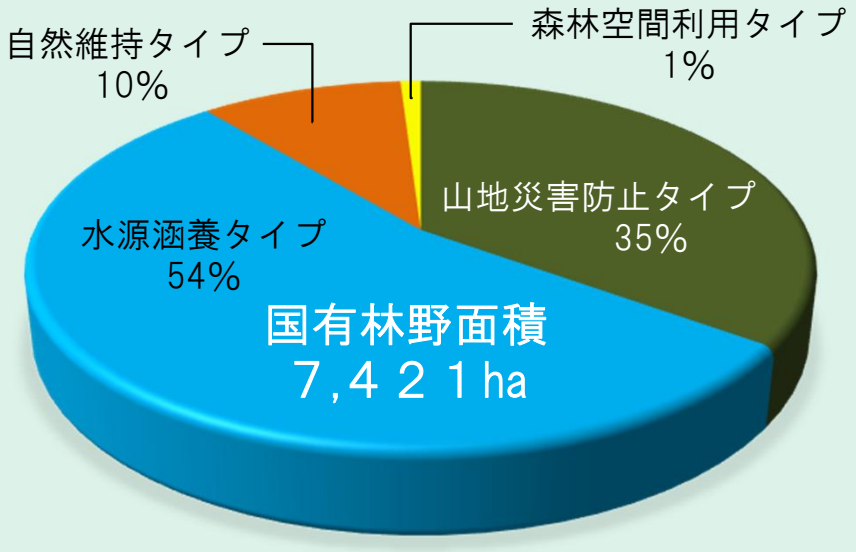
機能類型に応じた管理経営

○重点的に発揮すべき機能によって、森林を５つの機能類型（タイプ）に区分し、適切な管理経営を行っています。

機能類型	面積 (ha)	対象とする森林
山地災害防止タイプ	2,601	土砂崩れや土砂の流出等による山地災害や飛砂、潮害等の気象災害を防ぐことを目的に整備する森林
自然維持タイプ	747	原生的な森林生態系や貴重な動植物が生息・生育するなど特別な保全・管理が必要な森林
森林空間利用タイプ	56	国民の皆さんが森林とふれあう場として、また、森林ボランティア団体等の活動の場としての森林
快適環境形成タイプ	0	騒音の防備や大気の浄化等生活環境の形成を目的に整備する森林
水源涵養（かん）タイプ	4,017	洪水の緩和、水質保全等を目的に整備する森林

注：四捨五入により、内訳と合計が一致しない。

【機能類型別割合】



主要事業

（現行計画量：R5～R9年度）

（事業実績：R5～R7年度）

- 伐採量

	現行計画量	
	面積(ha)	材積(㎥)
主伐	20	7,941
間伐	418	41,446

	事業実績	
	面積(ha)	材積(㎥)
主伐	10	5,932
間伐	14	2,755

- 更新量

現行計画量（ha）	
人工造林	天然更新
20	－

事業実績（ha）	
人工造林	天然更新
1	－

- 保育量

現行計画量（ha）		
下刈	除伐	枝打
65	1	－

事業実績（ha）		
下刈	除伐	枝打
－	－	－

主要事業

（現行計画量：R5～R9年度）

（事業実績：R5～R7年度）

・林道

現行計画量		
	開設（m）	改良（箇所）
数量	-	5

事業実績		
	開設（m）	改良（箇所）
数量	244	7

・治山

現行計画量	
保全施設（箇所）	10
保安林整備（ha）	214

事業実績	
保全施設（箇所）	4
保安林整備（ha）	25

公益的機能の維持増進

国　土　の　保　全

○保安林及び治山施設の整備

山地災害防止機能や水源涵養機能等を高度に発揮させるため、保安林を配備するとともに、保安林の機能を高めるための治山事業を実施しています。

潮害防備保安林



松原国有林（敦賀市）

保安林の指定状況（R7年度末）

保安林の種類	面積(ha)
水源かん養保安林	7,205
土砂流出防備保安林	116
潮害防備保安林	29
保健保安林	48

※　保安林種が重複する箇所がある

国　土　の　保　全

○保安林及び治山施設の整備

谷止工施工前



谷止工施工後



河内国有林（若狭町）

森林病害虫被害への対応

○松くい虫による被害への対策

松原国有林（敦賀市）において松くい虫による松の枯損被害が深刻化していることから、地上散布や樹幹注入による被害の予防事業を実施しています。

また、松くい虫により枯れてしまった松は伐採して処理場に運搬し、破砕または焼却処分を行う事により松くい虫を駆除し、被害拡大を防止しています。

森林病害虫対策の実施状況
（R７年度）

特別伐倒駆除	90.76m3
地上散布	21ha
樹幹注入	667本

地上散布



松原国有林（敦賀市）

林産物の持続的かつ計画的な供給

林 産 物(木材) の 供 給
～　地形を考慮した間伐、小径木の利用拡大　～

○路網、高性能林業機械、列状間伐を組み合わせた低コストで効率的な間伐を推進

○小径木や未利用材は、木質バイオマスへの利用を拡大

低コストで崩れにくい路網整備 ＋ 高性能林業機械の活用 ＋ 列状間伐の導入







低コスト化に向けた取り組み
～　生産と造林の一貫作業システム　～

・植付けの時期を選ばないコンテナ苗を用いることで伐採後直ちに植付が可能（花粉の少ない苗木等の導入）
・木材の運搬機械を苗木や防護柵等の造林資材運搬にも活用することで、造林コストを低減

［伐採］



［造材］



［搬出］



［造林資材の運搬］



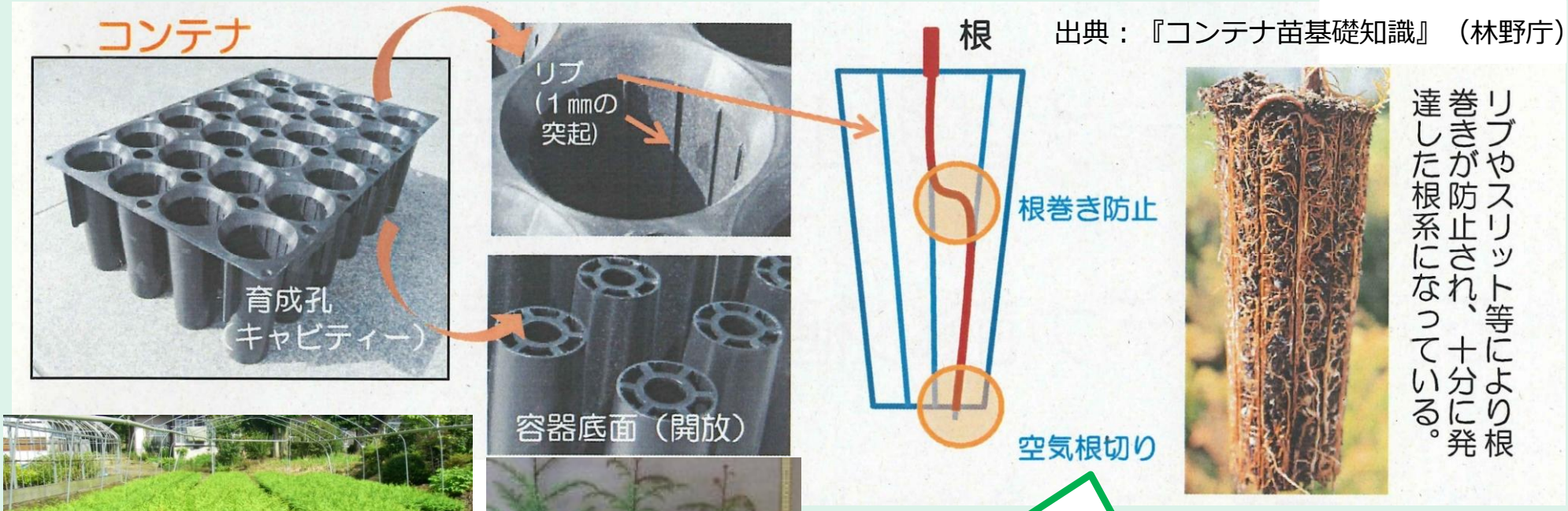
［植栽］



※一貫作業システム：伐採と植栽を一体的に行う作業

低コスト化に向けた取り組み
～　コンテナ苗　～

・苗木を育成する容器の内面にリブ（縦筋状の突起）を設け、底面を開けることによって、根巻きしにくい苗木を生産
・根鉢がコンパクトで小さな植穴で、季節を選ばない効率的な植栽が可能





コンテナ苗



コンテナ底面に穴が開いており、コンテナ下部に到達した根が空気に触れると自然に根の成長が止まること

地域産業の振興及び
住民福祉の向上への寄与

国 有 林 野 の 活 用

○レクリエーションの森

２箇所56haを設定し、国民の保健・文化・教育に活用



松原風景林（敦賀市）


手筒山風景林（敦賀市）



種類	名称	概要	面積(ha)
自然休養林	松原風景林	名勝「気比の松原」として白砂青松の景観が多くの人に親しまれている	32.45
	天筒山風景林	敦賀市内を見渡せる展望地として、また、散策の場として多くの市民に親しまれている	23.11

森林環境教育の推進

国民参加の森林づくりを推進するため、ＮＰＯ等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供や必要な技術指導を行うなど、国有林野の積極的な利用を推進します。

また、国有林野の豊かな森林環境を子どもたちに提供するため、学校、自治体、森林インストラクター等と連携しつつ、地域の要請に応じた森林環境教育に取り組みます。





松原国有林（敦賀市）での松葉かき、外来種除去の様子

次期計画の検討方向

次期計画の検討方向

１　公益的機能の維持増進

２　林産物の持続的かつ計画的な供給

３　地域産業の振興及び住民福祉の
　　向上への寄与

　国有林の三つの基本方針に基づく、各事業・取組について、現行計画と同水準以上で計画していく考え。

次期計画の検討方向

さらに、次期計画において、公益的機能の維持増進に関して、次の3つの取組について重点的に計画

１　複層林施業の推進

→水源涵養（かん）タイプの人工林について「複層林施業群」の比率を高める（人工林の複層林）

→人工林施業に適さない森林については、針広混交林や天然生林に誘導していく（天然林施業群）

２　自然度の高い森林の保全

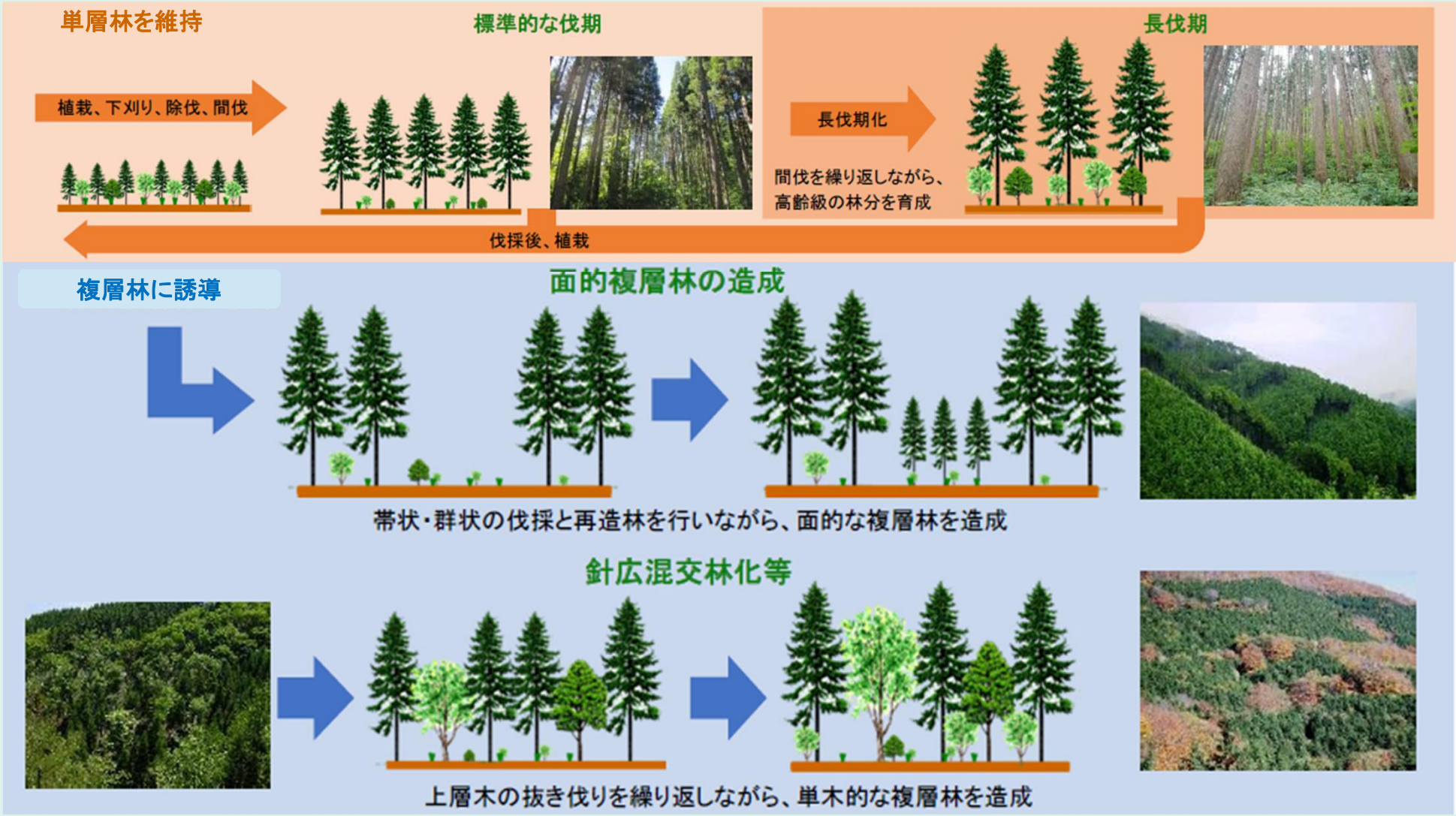
→保護林周辺の自然度の高い森林に係る見直し

３　林地保全に配慮した森林施業の推進

→山地災害リスクの高い森林の機能類型を、「山地災害防止タイプ」に変更

1　複層林施業の推進

森林・林業基本計画に掲げる目標に向け、近畿中国森林管理局においても、自然・社会的条件等を踏まえ、複層林への誘導を推進



２　自然度の高い森林の保全

保護林周辺や奥山などに分布している自然度が比較的に高い森林については、今年度実施中の保護林モニタリング調査の結果等を踏まえ、適切な保全管理の対象と位置付けて自然維持タイプへの変更等を検討

大山森林生態系保護地域



夜叉ヶ池
ヤシャゲンゴロウ希少個体群保護林



ヤシャゲンゴロウ

３　林地保全に配慮した森林施業の推進

森林は国土のおよそ7割を占め、地形は急峻で複雑かつ脆弱。また、近年全国各地で山地災害が激甚化しており、山腹崩壊、林道の損壊等広域にわたる大規模な山地災害が多発

国有林野では、従来から皆伐の伐採面積をおおむね５ha以下にするなど、公益的機能重視の管理経営を行ってきたが、今後、山地災害によるリスクを軽減するため、これまで以上にきめ細やかに林地保全に配慮した施業に取り組む。

・山地災害危険地区等との位置関係を確認し、機能類型の見直しを図る（山地災害防止タイプへの変更）。

・山地災害防止タイプのうち、急傾斜等に該当する小班をエリア指定し、林産物の搬出を原則として架線集材とする



山地災害危険地区の3区分

次期計画の検討方向

花粉発生源対策の加速化

府県が設定した「スギ人工林伐採重点区域」を含む市町村内の国有林を「重点区域に準じた国有林」に位置付けし、伐採・植え替えを効果的・集中的に実施。

（参考）林野庁の花粉発生源対策

花粉発生源となるスギの人工林について、「伐って、使って、植えて、育てる」といった森林資源の循環利用を推進し、花粉の少ない多様で健全な森林へ転換していきます。

伐って利用します

花粉を飛散させるスギ人工林等を伐採・利用します。

住宅に加えて、公共施設や商業施設の木造化等にスギ材を利用することにより、花粉を飛散させるスギ人工林の伐採を進めます。



伐採された木材の利用拡大



花粉発生源である立木の伐倒・搬出

植え替えます

花粉の少ない苗木等による植替や広葉樹の導入を進めます。

花粉の少ない苗木の生産増大に取り組み、スギの伐採跡地への植栽を促進します。また、条件不利地においては、伐採後の広葉樹の導入等を進めます。



花粉の少ない苗木等の生産体制を増強

出させません

スギ花粉の発生を抑える技術の実用化を図ります。

スギ花粉の飛散防止剤の開発・普及等、スギ花粉の発生を抑え飛散させない技術の実用化を図ります。



花粉飛散防止剤により枯死した雄花



目　標

- 令和5～15年度までにスギ人工林※を2割削減
- 将来的（令和5年度から約30年後）には花粉発生量の半減を目標

※花粉の少ない苗木はスギ人工林に該当しない。

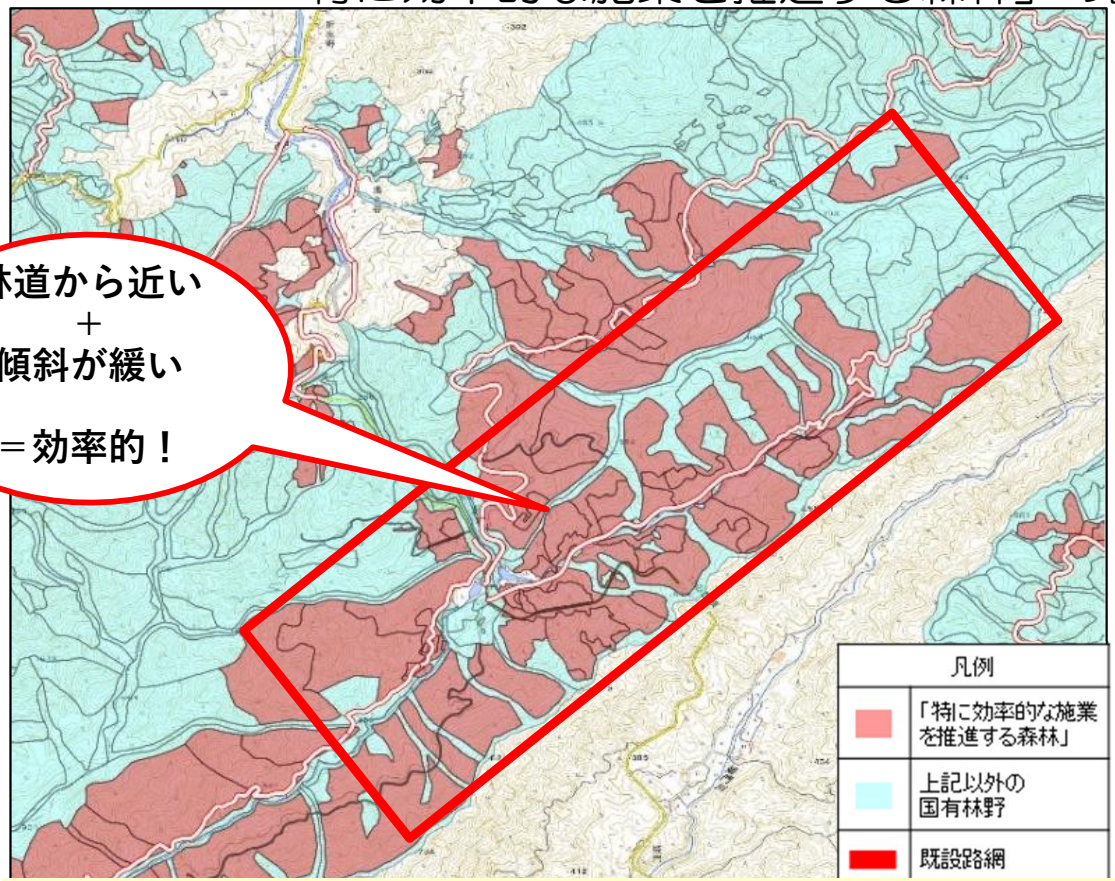
注）大都市近郊における伐採を率先

次期計画の検討方向

「特に効率的な施業を推進する森林」

水源涵養タイプに区分された人工林のうち、地位が比較的高く、急傾斜地以外の自然条件や林道等からの距離が近いなど社会的条件から持続的な林業生産活動に適したものを「特に効率的な施業を推進する森林」に設定

「特に効率的な施業を推進する森林」の設定と取組内容



「新しい林業」の実現に向けた効率的な施業の実施と民有林への普及



事業発注を通じた林業事業体の育成



木材の安定供給に資する林道の機能強化



このほか、分収造林新規契約やレーザ計測・解析等を優先的に実施



これらの取組を通じて、地域の国産材の安定供給体制の構築や将来的な森林吸収量の確保・強化にも貢献

国民の森林（もり）・国有林の計画づくりに地域の皆様の声を！



野鹿の滝
野鹿谷国有林（おおい町）